

国際日本文学研究集会会議録(第14回)

PROCEEDINGS OF THE 14th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1990)

国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

**PROCEEDINGS OF THE 14th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1990

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,

Tokyo, 142

目 次

あいさつ 小山弘志…………… 3

研究発表

- 「桃太郎」における鬼退治の意味 呉 讃 旭 …………… 9
説経節【小栗】における中世から近世へ Nicola LISQUITIN …………… 21
朝鮮通信使と歌舞伎 朴 賛 基 …………… 35
虫籠をめぐる詩歌史管見 鈴 木 健 一 …………… 51
異国で見る月 葉 英 樹 …………… 61
— 海を渡る者の詩から —
森 鷗外の「高瀬舟」と外国文学 張 小 玲 …………… 72
韓国モダニストの日本文学受容 佐 野 正 人 …………… 89
— 李箱詩と横光利一をめぐる —
鳥尾敏雄【日の移ろい】試論 Philip GABRIEL …………… 106
水上文学と中国 柯 森 耀 …………… 118

公開講演

- パラフレーズ分析について Karel FIALA …………… 129
— 平家物語・章段「殿下乗合」の構成をめぐる —
王朝の楽人達 福 島 和 夫 …………… 170
— 音楽史の一断面 —

記 録

- 第14回国際日本文学研究集会記録 (1990) …………… 185
参加者名簿 …………… 186
国際日本文学研究集会委員会名簿 …………… 189

あいさつ

小山 弘志

本日はお集りくださりまして有難うございます。この研究集會も今回で第十四回、多少年輪ができてきたように思います。

今年は研究発表に十五名の方の応募がありました。そのうちから九人の方をお願いをすることにして、お手もとのプログラムのよういたしました。プログラムを決めますのに委員会を設けており、館外から六人の先生にお加わりいただいております。委員長として国際基督教大学の福田秀一教授、以下五十音順に、明治学院大学の桑川光樹教授、清泉女子大学のアラン・ターニー教授、東京大学の芳賀徹教授、筑波大学の平岡敏夫教授、名古屋大学の山下宏明教授という方々です。この委員会で応募十五件について検討し、九人の方の研究発表を決めた次第です。そして、セッションをいくつかに分け、それぞれの座長を委員の諸先生をお願いいたしました。

今回は、中国・韓国といったアジアの方の御発表が多いことになりました。たしかある年には、女性の方が非常に多いといったこともございました。このようなことは年によっていろいろでございます。

今日は、これから六つの研究発表をうかがい、その後レセプションがございます。明日は、午前中に三つの研究発表があり、その後公開講演会が午後に予定されております。この公開講演会は、チェコスロヴァキアのカレル大学のカレル・フィアラ教授と、上野学園大学の福島和夫教授をお願いしております。フィアラ教授は、現在、京都にあります国際日本文化研究センターに客員教授としておられるのですが、御足労願うことにいたしました。フィアラ教授の御専門は国語学でございます。今回は『平家物語』の語法について、お話しただくということでございます。次に福島教授は、ご存じの方も多いと思いますが、上野学園大学で日本音楽資料室の室長もなさっております。その資料室

には日本音楽史関係の貴重な資料がたくさん集められています。福島教授は、作曲もなさると聞き及びましたが、日本音楽史に造詣の深い方であります。このように今回は、お二方から、狭い意味の国文学ではない、私どもにも興味のあるお話を伺えることになりました。

なお、ついでに申しますと、ただいま、当館の二階で『徒然草』関係の書物の展示をしております。複製本もいくつかございますが、ほとんどは当館所蔵の江戸時代の版本でございます。休憩の時間などに御覧いただきたいと存じます。それから、私どものいたしておりますいろいろな仕事について、この場で申し上げていたこともございましたけれど、今回はお手もとにパンフレットが配付されておりますので、それに譲ることにいたします。昨年度、日本語のものを作りましたが、今年は英語版も作りました。私どもが、乏しい人員と乏しい予算の中で、一所懸命にやっているという所を見ていただけますれば幸いです。でございます。

では、今日これからと明日、この集會が皆様の御協力により成功いたしますよう念じまして、簡単ではございますが、御挨拶といたします。

平成2年度国際日本文学研究集会委員会委員（五十音順）

- 委員長 福田 秀一（国際基督教大学教授）
委員 アラン・ターニー（清泉女子大学教授）
委員 糸川 光樹（明治学院大学教授）
委員 芳賀 徹（東京大学教授）
委員 平岡 敏夫（筑波大学教授）
委員 山下 宏明（名古屋大学教授）

（館内）

- 委員 新井 栄蔵（研究情報部長）
委員 武井 協三（情報資料室長）
委員 長谷川 強（文献資料部長）
委員 本田 康雄（整理閲覧部長）
委員 吉池 孝道（管理部長）

ウィリアム・ラフルーア客員教授は、平成元年4月5日から平成元年9月12日まで当館客員教授の間、館内委員として参加されました。

発行

平成3年3月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

印刷所

睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区木場6-12-5

電話 (03) 3649-6791(代)